

# PHD LETTER

## <21>

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT 1986・12

PHD運動とは1962年(昭和37年)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年(昭和56年)からはじまりました。

発行:財団法人PHD協会

編集人:草地賢一

住所:〒650 神戸市中央区元町通5-2-3

甲南サンシテイ 元町ビル711 TEL(078)351-4892

郵便振替:神戸1-29688財団法人ピー・エイチ・ディー協会

定価:100円

レイアウト:エフアンドエフ

- 海外出張報告 ..... P. 3
- 私にとっての国際とは～女性3人にきく ..... P. 6



タイ北部カレンの山村

子供と母親が野良で働く父親に茶を届けに来た  
どんな会話がやりとりされているのだろう  
父親の顔に安らぎと笑みが浮かぶのがみえる  
いい光景だなあ  
僕は自分のオヤジが働く現場を見たことがなかった  
知っていたのは「カイシャ」で働くという言葉だけ

# 架け橋

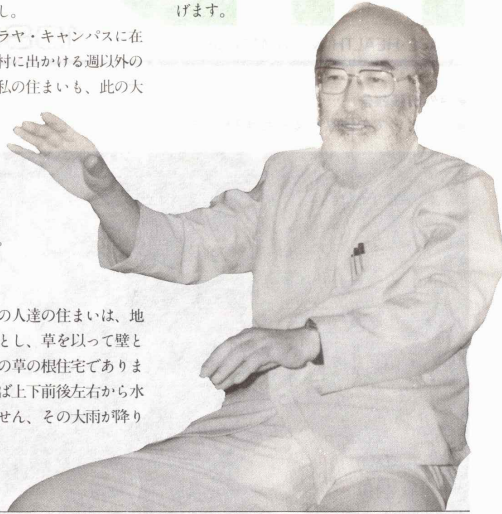
## 愛する祖国日本の皆さまへ ～草の根住宅から

PHD運動提唱者  
PHD協会理事 岩村 昇

ドクター岩村がタイに移られて、すでに半年がすぎました。毎回のレター原稿の到着が間に合うか心配していましたが、今回は何と他の原稿に先んじて一番に編集部に届きました。神戸時代に較べるとエライ違いです。ひょっとすると日本語に飢えているのかもしれない。同時に届いた私信から察するところとてもお元氣な様子です。用意されたバンコクのアパートより大学の中の小屋での生活が性に合っているとのこと、やはり現場が似合うドクターのようです。

タイ王国ナコンパトム県サラヤにあるマヒドゥル大学サラヤ・キャンパスの一隅にあるイワムラ・草の根・モデル住宅で書いて居ります。今、私の手もとには、此の日本製の原稿用紙とサインペン以外には何もありません。身軽ろければ、即ち心軽ろし。私のオフィスは此のサラヤ・キャンパスに在るのですが、実は無医村に出かける週以外の月曜から金曜までは、私の住まいも、此の大学構内の草の根に在るのです。その私の住まいは、木とスレートとコンクリートで造った高床式のモデル草の根住宅です。畳を敷けば7枚分位の板敷き一間丈ですが、私の隣人である草の根の人達の住まいは、地面に竹を突き立てて柱とし、草を以て壁と屋根を造った文字通りの草の根住宅であります。従って大雨が降れば上下前後左右から水びたし。あっ、いけません、その大雨が降り始めました。でも大丈夫、毎度のこと、ほ

ら私の隣人達は全員私の住まいに雨宿りに来てくれました。シンプルな暮らしは、素直なやさしい心があります。このタイの草の根の人たちからの学びを日本の皆さまにお伝えし、あわせて今年一年のご支援への感謝を申し上げます。



私を見下ろす、この青天が、ヒマラヤをも同じように見下ろしていることを一日中実感できる季節の訪れだ。水はけの悪い路地も、数か月ぶりに乾いているではないか。私がここで暮らすようになった四月初め、姿を消したカリフラワーが、再び市場に現れ、塩をつけては、夏中かじったきゅうりが、今は全く見られない。季節の移りかわりは、ネパールに祭りの季節をもたらした。「ダサイン」、「ティハール」と、今、ネパールに「特別な」季節が訪れている。たくさんの温かい心に見送られて、日本を出発してから、早七か月が過ぎ、物珍し気にきよろきよろ通りに行くこともなくなった。その分、足がこの地に着くようになったのかも

### ヤングのコーナー

## 青春の胎動

### ネパールの生活から学ぶ 「生きる」ことへの謙虚さ

前田直美

北九州市での小学校教諭を辞し、'86年4月から一年間の予定で、ネパール、バタン市にある幼稚園(ミットラ・スクール)に勤務。学生時代、PHD研修旅行で、ネパールを訪問し、ネパールに魅せられた。'85年夏に「仕事を探そう」と、3回目のネパール訪問。見事、現在の職(幼稚園教諭)を見つけた積極派。「自分の人生、何かをやってみよう」とは、彼女の口ぐせ。25才。独身。

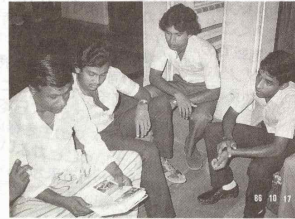
連絡先:c/o Embassy of Japan  
Kathmandu  
NEPAL

しれない、とも思う。第2回PHDスタディツアーを含めて3度訪れたネパールとは、全

く異なる、ここでの「生活」は、私にいつも「生きる」ことへの謙虚さを強いる。日本での私自身を振り返れば、体力を落としているときは、軽登山がきつとか、長く走り続けられないとか、学校の成績評価をするとき徹夜ができないとか、そういったレベルで自分の体のことを考えていた。しかし、ここでは、体力を落としたり、病原菌が体の中に入って、すぐにやられてしまう。予防手段は、自分の抵抗力をつけておくことしかないのだ。肝炎やチフス、赤痢なども、まだまだ多い病気のだから……。限られた食品で料理した質素な食事にも、これが健康を支えるのだと思えば、自然と、健康に感謝する思いが湧き、心から手を合わせて「いただきます」が出てくる。冷蔵庫もテレビも冷暖房器具もない暮らしだが、それなりの工夫や、過ごし方ができるものだ。このようなことは、ここに住む大多数の人々にとっては当然のことなのだが、私にとっては、得難い経験である。しかし、私には、ここでの暮らしには、社会的矛盾を感じることもある。このままのネパールで良いとは決して思えない。人々のたゆまぬ努力は、これからも賑々とこの国を向上させていくものと信じてやまない。たとえば帰国したPHD研修生たち、たとえば現在私の勤めている学校の先生方による——。私も、そして応援者になりたい。

# 海外出張報告<1>

## 激動のアジアで翻弄される草の根の人々



ランジット君の報告書を読む村長を囲んで(スリランカ)

### ①第5期研修生選考

来年度研修生選考についてはインドネシア、スリランカ、そしてタイから各1名計3名を選ぶことができましたが他にインドネシアから今後の研修課題を総合的にまとめるためのフィールドスタディをして戴く工芸学校の先生、そしてタイの農村開発のまとめ役の女性研修生の選考は相手方の都合により調整できませんでした。いずれにしても来年度は一応4名の研修生と一名の調査、調整のためのスタッフ計5名を受け入れる予定です。

### ②今年度研修生の中間報告

これについてはユリ・タムリン君(インドネシア)、ランジット・ジャヤンタ君(スリランカ)、ウィラット・ソンセン君、ベリア・ステイダーさん(タイ)の送り出し及び推薦機関そして各自の家族を訪ねてきました。去る11月3日付の神戸新聞シンガポール支局発の「アジアリポート」で紹介されましたようにイン

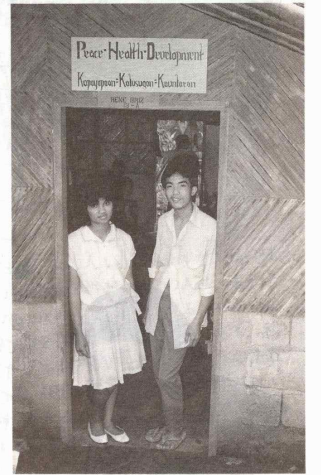
ドネシアではユリ君の研修風景をドキュメントしたビデオテープが好評でした。西スマトラ州知事、州都パダン市長その他関係者は改めてPHDの動きについて理解を深めて下さいました。知事、市長ともその場で大変PHDに対して感謝をされ又異例の激励の手紙とプレゼントを日本のユリ君に代わって私に託されました。スリランカは村長のチャールズ・アビクーン氏以下特に村の青年達がジャヤンタ君のレポート(テープ、写真、文章)を大騒ぎしながら聞いてくれました。タイでも同様でした。

### ③帰国研修生のフォローアップ

フォローアップについては暗いニュースになります。去る10月6日、フィリピン、ルソン島に台風で大雨が降り10月10日から刈り入れを始める矢先の田んぼは2メートル近くの水に没してしまい1ヶ月たっても水が引かない、今年の実収は完全になくなってしまったと途方にくれている3人の帰国研修生の嘆き。そして淡水魚のテラピア養殖の池もやっと出発し始めたと思ったとたんの大雨で全部魚が逃げ出してしまったマニラさん。今年の台風は小さいものも入ると20回を越えるとか。現在の研修生諸兄の最大の課題は自立の為のプロジェクトでなく、生き残るための方法が何かということでした。加えて農村を大混乱に陥れ入れている経済、政治の緊迫した状況。この試練の只中にある多くの草の根の人々の苦しみ。これらを前に私は言葉がありませんでした。

去る10月6日から1ヶ月インドネシア、シンガポール、スリランカ、タイ、フィリピンそして韓国に出張してきました。今回の出張には5つの大きな課題がありました。かいつまんで5項目のまとめを報告したいと思います。

草地賢一



レネ君とフィアンセ(フィリピン)

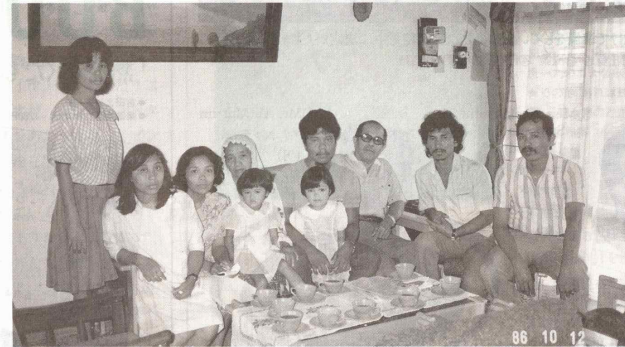
この中で同じ苦勞も2人だと来る12月21日に結婚式を挙げることにしたレネ君の上に皆様のご支援を心からお願ひ申し上げます。去る5月からフィリピン大学大学院で勉学に励んでいる大浜前事も足しげくこの4人の村に通って勇気づけと村づくりのセントについて応援してくれることになりました。絶望の中で何とか立ち上ってほしいと祈ること切なる思いでした。

### ④今後の研修生受け入れ機関の現場調査

これについてはタイの最貧地方東北タイの農民協会を訪ね今後の交流の可能性を探りました。

### ⑤今後の研修活動の展開に関する調査

かねてから考えていた韓国の農民の実状を探りその中でアジアの青年を受入れてもらう点、フィリピンの農村開発の方法を学びたいという点について調査をしましたか韓国と都合で次回に報告いたします。今回も又思い知らされたこと、それはアジアの激動との中で翻弄されている多くの草の根の人々の苦しみでした。PHDはこれらの人々に仕え続けねばならない、このことを通じてこそ我々日本人が心の豊かさを回復できるのだということでした。



86 10 12  
ユリ君の家族(インドネシア)

# 研修生レポート

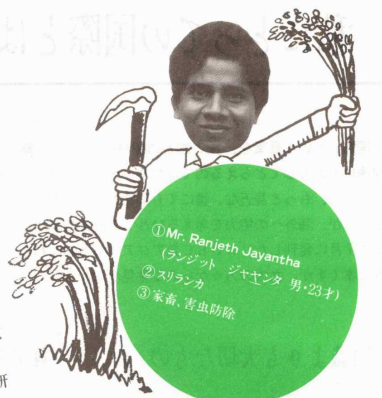
ウイラットさんは、兵庫県・和歌山県での農業実習を経験し、研修の課題を農業技術の修得に加え「村づくりのリーダー」としての姿勢と設定しました。ベリアさんは、医者・看護婦のいない山村の人々の健康向上のために住民自身がどのような取り組みをしていくのがよいか、また人々にどんな働きかけをし、どのような取り組みをしていくのがよいか、津名郡五色町での漁業実習の他、ジエックさんが、新しい技術まだ知識を得ることができました。その他地域での漁業をも学習し、新しい技術まだ知識を得ることができました。ヤンタさんは、3ヶ月の研修準備としての各地での農業オリエンテーションを終え、日本の農業の何を学び自国へ持ち帰ることを研修生は知っています。私たちが期待しているのは、日本の中で、地域づくり、あるいは生活改善を、日本の農業へ適用していくことが困難であることを研修生は知っています。私たちが期待しているのは、日本の中で、地域づくり、あるいは生活改善を、日本の農業へ適用していくことが困難であることを研修生は知っています。私たちが期待しているのは、日本の中で、地域づくり、あるいは生活改善を、日本の農業へ適用していくことが困難であることを研修生は知っています。

## ●Jayantha

私の村では、稲刈りは共同作業です。自分の家だけでは、とても大変なので、お互い手伝います。収穫した米は、自分の家で食べる分、手伝ってくれた人にお礼としてあげる分になります。売ることはあまりありません。日本の機械化農業は、日本だからこそ成り立つものだと思います。

## ●青屋市 種口真子さん

ジャヤンタさんのお世話をさせていただいた事になった時（日本語勉強のためY.W.C.Aへ通った期間）、大変不安な思いでした。最初の頃、大きなジュエチャー付きの会話を一生懸命していると長男がいつもそばにきて助けてくれました。日がたつにつれて彼の日本語も大変上手になられ、いつの間にか私達と冗談を言って大声で笑い合える様になりました。その後研修のため他の町へ行かれましたが、研修先からお電話が時々あったり、研修先のご主人と車で立ち寄りくれた時など本当に嬉しく思います。



① Mr. Ranjieth Jayantha (ランジエット ジャヤンタ 男・23才)  
② スリランカ  
③ 家畜、害虫防除

## ●Yuli

日本では、女の人も漁に出ますが、私の村では男だけ海に出ます。女の方は、家を守ります。女の方が家計を助けるための、家での仕事を指導、普及していくことも、私のインドネシアでの役目です。日本の漁業の知識、技術が私の村で生かされるには、時間がかかるでしょう。しかし、いろいろと日本の漁業からヒントを得たいと思います。



① Mr. Yuli Thamin (ユリタムリン 男・21才)  
② インドネシア西スマトラ  
③ 様々な漁業法、養殖(海草、かき) 水産物の家内加工技術

## 和歌山市 中井正信さん

私のところでは、一本釣りの実習をしました。私はインドで漁業指導の経験がありますが、漁場も漁獲物も違うので、日本の漁具を使っても有効とは限りません。大切なことは、現地の物でできる漁具を工夫して作り出していくことでしょう。もっと時期が早ければ、多くの魚が捕れ、参考になっただろうと思い、残念です。今後はシーズンを考えて実習を行っていくことが必要だと思います。ユリ君は大変まじめな好青年で、研修も積極的でした。

## ●Wirat

タイの農業も、日本の農業にもそんなに差はの点のぞけば、技術的にはそんなに差はないのではないかと感じています。私が学ばねばならないのは、日本の農家の方の考え方や、村を発展させていくために、どんな働きをしたらよいかということだと思います。

## 兵庫県黒田庄町 三谷康さん

10月12日より、各地で勉強したウイラット・ソンセンさんが、研修のため再び我が家に来てくれました。6月より大きく成長したウイラットさんへ接し、各地のみなさんの、大なることを身をもって感じております。私達の経営の中から、定着化できる農業を強く主張しております。ウイラットさん、今年一ばいです。



① Mr. Wirat Songsaeng (ウイラットソンセン 男・21才)  
② タイ北部  
③ 養鶏・畜産(病気の予防、治療法) 野菜、きのこ栽培

## ●Bella

カレンの山の村には、お医者さんや看護婦のいない地域がたくさんあります。病院まで何日も歩かないといけない地域もあります。日本では、病院が近くにあるので安心ですね。村の人々が、日頃から健康づくりに取り組むことができるように、どのように指導、普及していけばよいか学びたいと思います。

## 兵庫県大屋町 野崎芳子さん

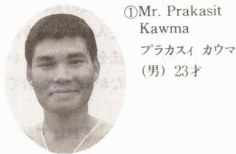
「今日は何勉強しようかな」ベリアさんは、ウキウキしながらメモ帳や辞書を持って来ます。夕食後の我家は、タイ語、カレン語、日本語、英語をミックスして一日の研修の様子、日本やタイの様子などにぎやかに話が弾みます。小学生の子供達2人も、この時とばかり「日本語の先生」となって張り切ります。昼の研修の疲れもみせず、夜遅くまで勉強しようとするベリアさんでした。日本で学んだ多くのことが、タイでも生かされるよう願っています。



① Miss Bellia Sutida (ベリア スティダ 女・23才)  
② タイ西北部  
③ 家政全般(乳幼児保健衛生、栄養改善、家庭菜園、手織り、家計簿作り)

## 第5期生紹介

11月現在3名が決定し、2月上旬の来日に向けて準備をしています。あと2名は、12月中旬に決定いたします。  
①氏名(性別・年齢) ②出身地 ③職業 ④日本での希望研修内容



① Mr. Prakasit Kawma (プラカシイ カウマ (男) 23才)

- ② タイ・ポックオ村
- ③ 農業
- ④ 畜産、淡水漁業



① Miss Neelakanthi Samanta (ニールカントイ サマタ ジヤヤコティ (女) 24才)

- ② スリランカ、ボヤワラーナ村
- ③ 農業(家事手伝い)
- ④ 家庭菜園、畜産、保健衛生、裁縫



① Mr. Ali Murtim (アリ ムルティム (男) 23才)

- ② インドネシア西スマトラ
- ③ 漁業
- ④ 漁具・漁法、加工、保存の方法

## BOOKS

### 「熱帯のくだもの」

●吉田よし子 著 ●表紙書房 ●定価 1280円



こたつに入ってみかんを食べながら……、なんていうのがこの季節の楽しみのひとつですが、研修生の故郷にはどんな果物があるのでしょうか。バナナ・パパイヤ・マンゴあたりはポピュラーですが、ランブタン・タマリンド・マンゴスチンあたりになるとピンとこないでしょう。どんな果物？歴史と産地は？栄養価や食べ方は？読めば気分はトロピカル。私達が日々食べているカーバンディッシュ種のバナナは実はあまりおいしくなくて、輸出元のフィリピンの人たちは見向きもしないこと知っていました！ たかか果物ですが、そこから見てくるものは意外に底が深かったりします。フルーツから入るアジア、これもひとつの方法でしょう。

## 第6巻 根元差卓

### フィリピンの台所 Sinigang シニガン



## シニガン (フィリピンの酸味スープ)

### 材料(4人分)

魚一丸のままなら20~30cmの物、でなければ切り身4枚★玉ねぎ・トマト各1個★その他、あれば茄子、大根、牛蒡、里芋等季節の野菜→適量★ホーレン草等の青菜→1把★米のとき汁→4杯★唐辛子(丸のまま)→2本★レモン汁→大さじ2★梅干→2個(熱帯フルーツの代用品)★塩、魚醤油(フィリピンではハティス、醤油で代用可)適量

### 作り方

- ①玉ねぎ、トマトは厚めにスライスしその他の野菜、青菜は大きめの一口大に切る。梅干は、ほぐして種を取り除いておく。
- ②米のとき汁を沸かし、玉ねぎ、トマトを入れ、唐辛子も丸のまま加える。塩適量とレモン汁で味をつけておく。
- ③青菜を除く他の野菜を火の通りにくい順に入れ、魚を加える。
- ④材料が全部煮えたところで、梅干と魚醤油で味を整える。青菜を入れ、サッと一煮立ちさせたら出来上がり。さらばりとしたスープで暑いフィリピンの気候にぴったり。

# 私にとっての国際とは 女性3人にきく

「国際」という言葉を、国と国との関係に限定し、難しいもの、縁遠いものとしてとらえるのではなく、その国に住む人々同士の関係として、もっと身近な、誰にでも興味をもってもらえるものにするのが、海外への協力を考えるひとつの前提のように感じます。この7月に発刊した「K O B E発アジア」もそんなねらいから作られた本ですが、女性の方々からのご意見がなかったことに気が付き、

今回3人の方に原稿をお願いし、ご意見を伺うこととしました。皆さん国際の専門家でもなく、それぞれの生活現場が忙し忙しい毎日の中で、アジア、アフリカなどの国の人たちへの関心をおもちです。偶然同年代の方が揃いましたが、それぞれのご経験の中から「国際」を特別なものとし、サラリとしたとりくみをまとめていただきました。

## 知識よりも大切なもの

渡辺昌美 兵庫県丹南町  
有機農業（養鶏）を営むご家庭の主婦。  
国内外を問わず研修に訪れる人が多い。  
お子さんは大学生を筆頭に3人。

先日、我町の文化祭で、「国際化社会に向けて視野を広げよう」と題した講演がありました。その内容は、外国人とのかかわりを持つにはその国の文化、国民性をよく知ってつきあうように、との話でした。

我家でも、ネパール、スリランカ、オーストラリアからの研修生をお世話する機会に恵まれました。その国によってお風呂の入りかた、食事の仕方をはじめ、もの考えかたも異なっていました。国民すべてのことと考え、両親を思いやる心のあたたかさを持ち合わせておられました。

しかし、こんなことがありました。お正月に親戚の者が集まり、さしみを食卓に出しました。それを見て、オーストラリアの青年が辞書を出してきて指差すので、その箇所を読みますと「野蛮人」とありました。一瞬ひびきえたとした気持を押えることができませんでした。その青年も、日本人がさしみを食べることはよく知っていたと思います。その国の文化や国民性を知ることが必要ですが、知識として頭に話込んでいても、現実と直面すればもういものではないでしょうか。又一般的にも、その国々の文化すべてを理解してから国際人の仲間入りをするとは、不可能に近いと思われま。知識よりもっと大切なものがあるように思います。言葉にしても外国語が話せることは素晴らしいことですが、話さなくても知っている数少ない単語と、日本語混じりの身振り手振りや時間をかければ心の通う話もできました。あまりむづかしく考えず、勇気をだして実際に外国人との交わりを体験することが「国際」を知る手かけりとなるのではないのでしょうか。

## 蘇る祖母の教え

善家裕子 東京都武蔵村山市  
主婦。老人ヘルパーから、アフリカに毛布を送る運動まで、必要とあらば即、動く行動派。  
3人の母。

友人から、貴女の日常の中での国際は？と問われて考え込んでしまった。  
大茶の間から国際を考えると、衣食住、何と多國の人々にお世話になっている事かと、深く思い当たる。私の中で、お世話になっている、との思いが強いのは、彼の地の人々と苦も楽も分け合っの国際では無いと知っている後ろめたさなのだろう。外出に箸を持参したり、飢餓難民キャンペーンに家族中で汗を流したりもした。ただ、それだけなの？、と心の内の「後ろめたさ」と向き合って考える。ふと、子供の頃祖母が言っていた事を思い出した。

『庭木の枝を切る時にや、実の成る枝は垣根外、刺有る枝は垣根内』『豆をまく時は三粒づつ、一つは鳥に、一つは虫に、そして一つは人様に』そんな事を折りに、くり返し教えてくれた。

“後ろめたさ”と向き合っている時に唐突に祖母との日常が蘇ったのはどうしてだろう。祖母の口調をなぞってみて、本物の優しさ、分を弁えた慎しさが、今の私の生活には根づいていない事に気が付かされた。小さな地域の中で土と生きていた祖母達のあの、ホコホコとした暖かさは何から産まれたのだろうか…日常の中の国際は？と問われて、私の中の後ろめたさに気が付き、祖母の世代の暖かさ、優しさを思う。あの世代が叩いてくれた優しさの火種を育てていく事が、友人の間に対する私の課題の様思う。

## 差し出しそして受けること

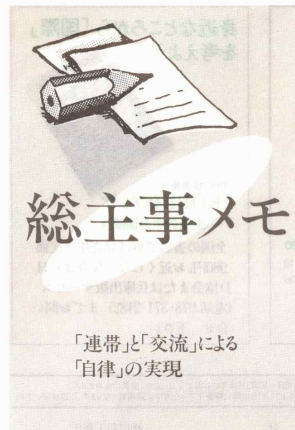
加藤喜美子 神戸市垂水区  
愛徳カルメル会シスター。インド、フィリピン、台湾を訪問し、東南アジアへの関心を深める。

赤茶けた大地を、土埃を、そして人々の貧しさをすっぽりと包む漆黒の闇。澄みきった大気の彼方にはこぼれんばかりの星空が続く。だが、最初の感動が殆どと、何をしてもなく、何を語るでもなく、ただじっと村人たちと一緒に大地の上に坐り続けていることが耐え難くなっていた。そんな私の苛立ちを感じとったのか、傍らのインドの友人がそっと囁いてくれた。「共に在ることが素晴らしいんだ」

真夜中近く、私たちに饗された炊きたての御飯。それは、友の言葉が空しくなかつたことを雄弁に物語っていた。村人たちは一年分の米を使って持て成てくれたのだという。私は生涯にただ一度限りの「出会い」の重さに、まさに押し潰されそうになっていた。辞書を見ると、「国際」の項には「諸国家、諸国民に關係すること」とある。そして、国際価格、国際政治、国際連合といった単語が連なっている。だが、どのように關係するのか、どんな係わりを持つことが国際なのかを教えてはくれない。

あの夜以来私は、「共に在ることが素晴らしい」なるのは、互いに分ち合える時だけなのだと思っている。そして、それが生きることなのだと感じている。人種も国籍も、習慣や作法の違いも、そんなことはどうでもいい。ただ何の気負いもなく恥じらもなく、自分から差し出し、他者から受けること、それが私の生活の中の国際だと思っている。

読者の皆さんのご意見、ご感想をお待ちしています。



「連帯」と「交流」による「自律」の実現

最近日本のNGO（国際協力を担う民間の団体）は自分達の活動の情報交換や共通問題を

共同研究したりする相互の関係を深めている。又NGOとODA（政府開発援助）の関連についても外務省やJICA（国際協力事業団）と意見交換が事務レベルで始められている。このような動きの中でPHDの理念や方法論が改めて問われることが多い。提唱者岩村博士の「生きるとは、分かちあうこと」、「アジア、南太平洋の農、漁民を中心とした草の根の人々の平和と健康を作る人材づくり」という大きな視点は非常にシンプルで明確である。日本のみならず今度初めて訪問した韓国でも他のアジア諸国でもこのメッセージは極めてスムーズに理解される。特に韓国ではぜひKOREAN PHDを作りたいという程、熱心な反応があった。問題はその理念を具体化する活動方法が何かということである。この際財政の点は触れず草の根の人材養成の点から考えてみたい。農業業他、保健等の技術を中心とする人材養成が、この技術を有効に使ってなされる地域

組織活動を視点とする展開でPHD運動の取り組みは大きく異なっている。前者の方が方法論としてはシンプルであるがそれのみで草の根の人々の経済的自立が「万」可能になっても、精神的、社会的自律はどうであろうか。技術が無いから貧しいのではない。教育が無いから遅れているのではない。実はそうさせられているのではない。とすれば技術や教育が与えられればそれですべて解決するのか。問題はその不公平、不平等を指摘し、「一」させている人々の考え方を変えさせることなしに与えられるのでは結局自律は得られない。NGOの究極的使命はこの「自律」を求めて日本とアジアの双方の草の根の人々が交流し連帯するところに実現されるのではないかと思う。まだまだこの方法論の実現を巡って当分試行錯誤の段階が続くそうである。

草地 賢一

# PHD NEWS

会費・ご寄附寄託状況		
1986年 8月	¥1,528,220	102件
9月	¥1,024,410	66件
10月	¥1,812,948	208件
	¥4,365,578	376件

以上の通り、多くの皆様より会費とご寄附を頂戴いたしました。慎んでお礼申し上げます。

PHDバザーチーム、マレー風焼鳥「サテ」でひとしづめを囲む……

11月1・2日の両日、兵庫県三木市緑ヶ丘で公民館文化祭が行われ、PHD協会からもバザーコーナーを出展しました。地元のPHDメンバーとともに、エムガキ、トレーナー、寄贈品、手芸品などを販売しました。今回の目玉は、マレー風焼鳥「サテ」。前夜から若手メンバーがタレを仕込み、炭火で焼く本格派でせまりましたが、独特の色と味にお客さんは敬遠気味、試食を乱発し値を下げ理解に努め、何とか完売。エスニックブームはどこに？来年はやっぱりタコ焼きかしらん。

長谷川きよを迎えてのコンサート企画中//

2期生サンパ・カヤスタ氏（ネパール）の指圧指導を通じ、ネパールの盲人の状況に関心をもたれた増田守男先生（兵庫県立盲学校教員）の

アイデアで、米春（4/3予定）障害者福祉と国際協力を結ぶことをアピールするコンサートを、PHDに加わる若い仲間を中心にして「コンサート実行委員会」が作られ企画をすすめています。あなたのアイデアと時間を是非！ 実行委連絡先：PHD協会気付 担当 藁まで

2期生レネさん（フィリピン）12月結婚

83年12月から1年間、沖縄・兵庫・島根などで果樹・野菜を学んだレネ・ブリス氏がめでたく結婚することになりました。本人は少し早かったと照れているようです。アキノ政権になってからもフィリピンの庶民の暮らしは急じは変化せず、相変わらず苦しいようですが「レネ君、これを機にさらにかんばって下さい。」

3期生ニールンさんのお母さん亡くなる

85年4月から、大豆加工・指圧を学んだニールン・ガウチャン氏（ネパール）のお母さんが亡くなったとの訃報が日本で指導された松根氏（神戸市）宅に届きました。彼が日本滞在中もあまり体調は良くなかつたようです。早くにお父さんも亡くしている彼にはかなりショックだと察せられます。激励の手紙を協会宛お寄せ下さい。お願いします。



1986年もあとわずか。今年はどうな一年でしたか？PHDレターも今年最後の号となりました。編集に関わらせていただくのは今回でまだ、やっど3度目ですが、物をつくりだすことの大変さを痛感します。自ら経験して初めて、日頃なにげなく読んでいる印刷物の、たつたひとつの句読点にさえ、実に多くの人の時間と労力が費やされていることを知りまして。読点ひとつ、形容詞の選び方ひとつで、文は大きく変わってきます。長編小説の中に、ひとつ読点をつけただけで主人公に新しい魅力がうまれることだってあるかもしれません。PHDレターが、読者の皆さんが主人公の「生活」という読点になれたらと思います。世界中の主人公達に Merry Christmas and Happy New Year!

Y.H  
レター21号 編集メンバー  
赤松 恵美子 川藤 辺裕子  
坪 光子 芝 美代子  
得原 輝美 島島 博子  
梶原 靖子 (五十歳)

## PHDオリジナルトレーナー 新作ができました！

好評のPHDトレーナー、今年は2つのタイプを用意しました。収益で研修生を支え、外に着て出してみんなにアピール。決して寝巻専用にしなくて下さい。タイプ・カラー・サイズ・枚数を協会まで。代金は品物が届いてから「振込み」で結構です。



**Aタイプ: ¥3,500**

左胸にPHDをワンポイントでプリント  
カラー:紺 サイズ:S・M・L

**Bタイプ: ¥3,500**

前面中央部に"LET'S SHARE 10 PERCENT OF WHATEVER YOU HAVE FOR PHD"とプリント  
カラー:黒・霧降灰・白・ピンク  
サイズ:M・L

身近なところから「国際」  
を考えよう



PHD協会発行  
**「KOBE発アジア」**  
～生活の中の国際～

全国の書店で好評発売中！定価980円。お近くにない場合はPHD協会または兵庫出版サービス(電話078・371-2182)までお問い合わせ下さい。

新規会員・寄付者ご芳名は、  
個人情報保護のため掲載しておりません。